
メリーポピンズ南蒲田ルーム

令和6（2024）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげていける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人</p> <p>・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔を心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。</p>
	<p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。</p>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員の良い関係性が築かれていて、積極的な情報交換や提案が行われ、個に応じた保育、職員が主体的に考える保育が実践されています
	内容	園では話しやすい職場環境作りに努めています。職員同士で日常の保育中ではもとより、休憩時間、会議などで互いに、子どもを中心とした情報交換や提案、及びエピソードを交えた保育の検証などを活発に行える関係性ができています。これにより、一人ひとりの子どもについての状況が自然に共有されるとともに、様々な視点から子どもを観察する事ができ、子ども個々の個性や状況に応じた援助が実践されています。この関係性により、年度ごとの計画策定会議においても、職員が主体的に、一丸となって取り組める保育計画が組まれています。
2	タイトル	0～2歳児がワンフロアにて生活する中、どろんこ会グループの特色である異年齢保育が効果的に実践され、互いに関係性を築いています
	内容	小規模保育の特性として、園は家庭環境に近い状態で子ども一人ひとりの性格や発達状況に応じた支援に力を注ぎやすく、家庭との連携も大切にしています。また、全ての子どもがワンフロアで生活する環境で、見て真似る事を多く体験していきます。例えば1歳児が2歳児のダンスを真似て体を左右に動かしてリズムに合わせた、雑巾がけや朝の座禅では職員の動作を見て雑巾に触れようとしたり目を閉じたり、その子どもが今感じ、今できる事を表現しています。2歳児の子どもが年下の子どもを可愛いと思い、世話をしたりする姿も見られます。
3	タイトル	事業計画には計画の意図と具体的な取り組みが明記され、その振り返りが徹底されていて、次年度の活動の方向性に明確につなげています
	内容	事業計画は、どろんこ会グループの統一性のある様式により策定されています。単年度計画においては基本方針に始まり保育内容、保護者支援、地域の子育て支援、スタッフ育成等々の柱項目立てごとに、計画やねらい、具体的な実践内容が明確に記載されています。これらについては、その項目ごとに振り返りがなされ、事業報告書も計画と同様の項目立てで、実践結果とそれを踏まえての次年度の活動の方向性までが記されています。それを受けて当年度の事業計画が生まれ、年度ごとの園運営のPDCAが活動項目ごとに明確となっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業継続計画(BCP)においては、園業務の継続、早期復旧という観点での計画をさらに深めていく事を期待します
	内容	大規模災害に関しては、昨今の天候傾向の激変や頻繁な地震発生などを受けて、危機感が高まっています。どろんこ会グループではグループ共通のクライシスマニュアル及び、事業継続計画(BCP)が策定されていて、ガバナンスの取れた安心感につながる体制が整えられています。今後は子育て支援の役割に照らし、園業務の継続や早期復旧についてさらに検討を進めるとよいでしょう。多様な災害状況が想定される中での計画は難しい面もありますが、当園の特性を踏まえ、他園の事例研究なども重ね、子育てニーズ観点での計画の充実を期待します。
2	タイトル	現在の職員構成の中にあっては、施設長を支えていけるリーダー的職員の育成が早期に望まれます
	内容	園は小規模園である特性を生かし、職員同士の連携やコミュニケーションを密に取っての保育運営が実践されています。ただし、今年度はリーダー職員が系列園へ異動し、若い現行職員のレベルアップが課題とされています。園業務は施設長によってカバーできていますが、施設長が多忙のため地域の園長会などへの出席が難しいといった状況もあります。施設長は職員の外部対応や送迎時対応の等質化などスキルアップのための日常指導や研修に力を入れています。施設長を支えてスタッフ指導を行えるリーダー職員の早期育成が望まれます。
3	タイトル	児童減が続く状況下で、特徴ある保育活動を地域にさらに浸透させていき、選ばれる園としての魅力のアピール強化を期待します
	内容	保育業界全体として、少子化が園経営の圧迫要素となってきています。施設長は選ばれる園としての魅力、そしてそれを地域にアピールしていく事の大切さを強く認識しています。園は様々な子育て内容や地域子育て支援「ちきんえっぐ」など、どろんこ会グループの特徴ある保育活動を実践しています。そこで施設長は、本園の活動内容を近隣に対してさらに広めていこうと努めています。施設長の目指す「地域とともに行う保育」に向けて、園のイベントの告知、関係機関などとのコミュニケーションを広げていくための、さらなる工夫を期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	職場のコミュニケーション重視により、職員の育成強化と長期定着を図っています	
内容①	園では、保育の質の安定した向上のためには、スタッフが働き続けたい意欲醸成がポイントと捉えています。そのためには、職場環境の改善だけでなく、職員自ら向上心を持ってもらう事を大切にしています。そこで事業計画のスタッフ育成の項目は、特に力を入れる事の一つとして位置付け、中でも、職員同士のコミュニケーションを重視しています。業務の隙間においては保育中の子どもの姿のきめ細かな共有を、園内会議では保育の方向性について、経験年数に関わらずフランクに意見交換ができるように積極的な発言を促しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	主体性を育てるために、自分で考え行動する多様な体験に重点をおいています	
内容②	園ではやってみたい事、思い通りにならない事を経験できるように、様々な機会を用意して「自ら選択してやる」「考えて行動する」姿勢を育んでいます。安全に留意しつつも子どもの行動を先読みした誘導はせず、さりげない言葉かけや保育者が行動を見せるなどして行動を促し、そして見守ります。訪問時には外遊びから帰ってきた子どもたちが自ら手を洗い、食事のテーブルに着く姿がありました。少人数の異年齢での生活で、頼り合い、ぶつかり合い、手を差しのべ合う事で、自ら選択してできる事を増やせる環境作りに努めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域の子育て支援の拠点となるように、地域活動の強化を図っています	
内容③	「地域と一緒に子育てをする園に」そのような願いから、園は地域の人たちとの交流を大切にしています。商店街ツアーを積極的に行い、多くの仕事や働く大人の姿に触れています。この体験を通じて、子どもたちは人の目を見て挨拶を交わし会話もできるようになってきています。挨拶を通して受け入れられている事で、自己肯定感も得られます。近隣の児童館とはイベントの告知協力や保育情報の提供、アドバイスをもらえる良好な関係を築いています。地域活動を充実させつつ、関係機関との協力や連携を深め、園の存在のアピール強化に取り組んでいます。	

I 組織マネジメント項目（カテゴリ1～5、7）

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
	評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	<p>グループ共通の理念、子育て目標などを様々な機会に周知し、浸透に努めています</p> <p>どろんこ会グループ共通の考え方として、保育理念「にんげん力。育てます。」、保育目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」などが園の玄関掲示、入園のしおり、保育品質マニュアル、全体的な計画などに示されています。これらは年度ごとの諸計画を決定する策定会議、キックオフミーティングなど、様々な会議でも確認し理解を深めています。また、保護者に対しても入園時での説明をはじめ保護者会、保護者参加行事、園だよりなど、種々の機会に確認し、保護者と園との協働で豊かな子育てが行えるよう、浸透に努めています。</p> <p>経営層は自らの役割と園の活動の方向性を理念に沿って示し、職員をリードしています</p> <p>年1回、どろんこ会グループ本部が行う全体研修の中で、本部の現状や今後の方向性ととも各園、スタッフの役割などが確認されます。当園は職員5名の小規模園で、経営層は施設長です。新たな年度計画を決定する策定会議において、施設長は改めてグループ理念を確認し、子ども主体の保育を強く打ち出しながら、職員の自主性を重んじて話し合いをサポートしています。日常の保育においては、子どもが自分で考えて行動する事を大切にし、「まずは子どものする事を見守り、援助は必要に応じて」を常に伝えながら園の保育をリードしています。</p> <p>重要案件は種類によって決定プロセスを定めてあり、適切な手順で周知しています</p> <p>重要案件について、マニュアルの変更など全園統一の決定事項は本部から園に通達され、施設長から職員に伝えられます。園内の案件で人事や高額な予算案件については、施設長が運営本部課長と相談したうえで、本部に起案し承認を受けます。一定の金額規模内の物品購入や修繕、職員の係分担などは施設長の裁量に任されています。決定事項の園内での伝達は、決定までの経緯も含めて、職員会議、メール、欠席者への議事録回覧などで適宜行っています。保護者にはアプリ、もしくは内容に応じて紙面やお迎え時での口頭説明などで伝えています。</p>		

2	カテゴリー2		
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			6／6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		
	評点(〇〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当	
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		5／5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当	
カテゴリー2の講評			
<p>保護者及び職員の意向は、アンケートや面談その他で綿密な把握に努めています</p> <p>保護者の意向は日常の送迎時、連絡帳アプリなどで細かいコミュニケーションを取って把握しています。また保護者懇談会、個人面談、毎年の利用者アンケートなどでも意見聴取を行い、改善点の検討や改善の実施につなげています。職員の意向については、目標管理制度にのっとった定期的な面談のほか、随時の面談、園会議その他の会議での意見交換、毎年の職員意向調査などで実態を把握して、職場環境の改善などにつなげています。園は保護者、職員にとって話しやすい雰囲気作りに努めており、気軽に相談できる環境が醸成されています。</p> <p>子育てに関する地域情報や業界動向は、行政、関係機関、本部などから把握しています</p> <p>地域の子育て状況や子育て事業の動向などの情報については、主に自治体からのメールや区のホームページ、どろんこ会グループの社内報などから把握しています。参考動画を閲覧したり、自治体からの告知内容などに対して本部と相談したりしています。そのような中で前年度より都、区から、保護者以外との多様な関わりを通して様々な経験をする機会創出事業が打ち出されています。就園していない子ども対象の事業で、園はこれについては、少子化によって重点が従来の待機児童の解消から子育て支援の充実に移ってきている表れと認識しています。</p> <p>中長期計画を踏まえた単年度計画が策定され、それぞれ振り返りを適切に行っています</p> <p>事業計画は、運営本部が策定した運営ミッションを基に3か年計画と単年度計画を策定しています。また、それらを基に保育の全体的な計画、年間計画なども作られています。単年度計画は基本方針から始まり、運営方針や環境整備、危機管理、スタッフ育成、地域交流等々の項目からなり、簡潔でわかりやすく記載されています。計画の振り返りは次年度に向けての計画策定会議で行っています。各項目に明確に対応した振り返りがなされていて、達成度合いに応じて以後の方向性も検討しています。これに連動して、3か年計画も毎年見直しがなされています。</p>			

	カテゴリー3の講評
	<p>職員として守るべき事柄は、周知、理解、遵守の確認をていねいに行っています</p> <p>法律上、倫理上、マナー上、守るべき事柄については就業規則、保育品質マニュアルなどに示されています。これらについては、全職員が入社時に本部の研修を受けるとともに、機密保持などについての誓約書を交わしています。また、内部監査室による内部監査、オンラインによる情報セキュリティチェックやコンプライアンスチェックを定期的の実施し、遵守状況の確認を行っています。さらに、保育者として望ましい業務行動に照らし合わせて自己を振り返る「コンピテンシー自己採点」を毎月行い、その中で、規範についての意識も高めています。</p> <p>苦情対応や虐待防止については、マニュアルに沿って理解と実践に努めています</p> <p>外部からの意見や苦情については、入園のしおりに受付担当者、解決責任者、園外の第三者委員などを明記し、入園時に保護者に説明しています。苦情には保育品質マニュアルに沿って迅速に対応し、解決に至るまでを「ご意見・ご提案シート」に記録し職員全体で共有します。虐待防止については年2回、児童・保護者の人権に関するチェックで振り返りを行い、不適切な保育防止への意識を高める一方、内部通報制度も導入しています。家庭での虐待が疑われる時は、本部の担当課長と相談のうえ、必要に応じて関係機関と連携しながら対応しています。</p> <p>地域の子育て支援活動「ちきんえっぐ」を実施し、告知拡大に力を入れています</p> <p>地域の子育て支援の拠点として、どろんこ会グループが全国的に展開している活動「ちきんえっぐ」をほぼ通年、月曜日から土曜日にかけて実施しています。園開放と子育て相談をベースに、月1回「子育てサロン」での各種製作活動や「青空保育」として公園での出張保育などを行うほか、系列園共通の夏の恒例行事「どろんこ祭り」のイベントも開催しています。活動内容はホームページの「ちきんえっぐだより」で公表しています。園が課題とする関連機関との交流の充実と合わせ、活動告知を広げ、地域で園がさらに強く根付いていく事が期待されます。</p>

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			5／5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		4／4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリー4の講評			
<p>リスクごとに命の安全を最優先に対応しており、各種マニュアルが整備されています</p> <p>リスク対策においては、事故や災害などの種類でなく、子どもの命に関わる事への対策を最優先として捉えています。その方針で、様々な観点でリスク防止もしくは、発生時の迅速な対応を示したマニュアルが整備されています。具体的には、保育運営マニュアルの中に、事故や災害などに関する危機管理マニュアルや感染症マニュアル、大規模な災害を想定したクライシスマニュアルなどがあります。これらはどろんこ会グループ共通のマニュアルであり、安全確保のノウハウとして、系列園全てにおける安全対策の標準化が図られています。</p> <p>様々なリスクについて対策の実践、訓練を行い、再発防止の検討も行っています</p> <p>リスクへの防止・対応については、実践面での備えにも注力しています。具体的には毎月の避難訓練、年2回の不審者侵入訓練、戸外活動時の園児人数のダブルチェック、また、原因究明と防止対策検討を必ず伴った事故記録簿・インシデント報告書・ヒヤリハット報告書等々があります。様々な観点から安全対策に努めています。また、大規模災害に備えては、クライシスマニュアルに加えて、安全確保の体制とともに園活動の継続・復旧に備えた事業継続計画(BCP)が策定され、職員業務の座右の書である保育品質マニュアルの中に記載されています。</p> <p>守秘情報の扱いについては、個人情報も含めてルールを定め実践しています</p> <p>情報管理の中で、個人情報などの守秘情報の扱いについては細心の注意を払い、体制作りやルール設定に努めています。デジタルデータは使用パソコンを限定してアクセス制限をかけています。紙媒体は鍵付きの書庫で施設長が管理しています。職員の守秘情報へのアクセスは貸与携帯に限られ、USBメモリの使用は一切禁止としています。そのうえで、必要な情報を必要な人がスムーズに活用できるようなシステム体制も構築しています。保護者に対しては、写真や動画など個人情報の扱いについてのどろんこ会グループ方針を示し、同意を取っています。</p>			

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12／12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <div> <div> <div>評価</div> <div>標準項目</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる</div> <div>○ 非該当</div> </div> </div>				
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <div> <div> <div>評価</div> <div>標準項目</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している</div> <div>○ 非該当</div> </div> </div>				
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <div> <div> <div>評価</div> <div>標準項目</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている</div> <div>○ 非該当</div> </div> </div>				
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <div> <div> <div>評価</div> <div>標準項目</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている</div> <div>○ 非該当</div> </div> </div>				
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3／3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる <div> <div> <div>評価</div> <div>標準項目</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている</div> <div>○ 非該当</div> </div> <div> <div>●あり ○なし</div> <div>3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる</div> <div>○ 非該当</div> </div> </div>				

	カテゴリー5の講評
	<p>人材確保はリーダー職員の育成を重視し、本部の課長と相談し工夫・検討しています</p> <p>職員の採用については、本部の人事採用部が一括して行っています。採用募集においては、ホームページの採用情報に園の魅力を、写真や職員の話を交えてわかりやすく伝え、理念に共感できる人材を求めています。また、人事採用部と園が連携して、職員による人材紹介制度も実施しています。現況における園の人材ニーズは、早番や遅番に対応できるスタッフ、リーダーとして後輩を育成できる人材としています。それに向けて、施設長は運営本部課長と職員の個性や能力、成長して欲しいポイントなどを相談しながら、配属や異動を検討しています。</p> <p>職員の評価・育成・将来展望について、明確に示した人事制度が定められています</p> <p>どろんこ会グループ統一の、理念や保育方針を踏まえた人事制度が定められています。各等級にキャリアステージ、職務遂行能力などが定義され、キャリアパスが明確に示されています。評価は目標管理制度が導入され、施設長との面談による職員主体の目標設定、進捗状況の確認やアドバイス、評価により、双方納得できる評価と育成を重視しています。研修では、各種の園内研修に加え、本部による毎月の「子育て（保育）の質を上げる会議」、どろんこ会グループが運営する研修プログラムなど、スキル向上のための充実した環境を整備しています。</p> <p>職員の意欲、主体性、チームワークを重視して制度その他の環境を整えています</p> <p>職員の意欲向上のための環境作りに努めています。評価は目標管理制度により、職員の納得を重視して行い、昇級、昇格にも連動させています。業務上で顕著な成果が見られた場合は、園会議での事例発表などを通して告知、称賛しています。また施設長は、小規模園ならではの職員同士が話しやすい職場作りに力を入れ、「子どもを真ん中に」しての日々チームワーク性豊かな保育を心がけています。さらに新年度に向けての計画策定会議では、職員がやりたい活動を提案する「プロポーザルシート」を活用し、職員の主体的な保育運営につなげています。</p>

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>どろんこ会グループの理念「にんげん力」を身に付けるため、子どもが様々な成功や失敗を経験し、「自分で考え、行動する思考」につなげていく事に取り組みました。まず、子どもの動植物、自然現象への関心を生むように、保育者が率先して触れたり調べたりする姿を見せました。また、保育者は子どもが次の行動を自分で考えて行えるような言葉がけに努め、まずは見守りに徹しサポートは必要に応じて、を意識しました。例えば、遊んでいる時に食事の時間が来たら、「食べる前にどうしようか」というように、次の行動を自分で考え決定できるように働きかけを行いました。そして秋ごろには、子どもが食事の準備に気付くと、自分で遊びの片付けを始めるようになりました。取り組みの振り返りについては、週会議や休憩時間などに職員同士で行いました。このようなサポートを続けていく事で、子ども自身の生活に一連のスムーズな流れができていきました。ただし、子どもの個性やその時の気分により、無理をさせず粘り強く見守る事も心がけました。以後も動植物との触れ合いやクッキングなど、自分で考え行動する環境設定を深めていき、子どもの主体性や自立性をさらに育てていく事としています。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>「にんげん力」というどろんこ会グループ理念に基づく保育の成果を、より確かなものとして得られるように、強化すべき活動を施設長が検討した結果が本取り組みでした。これについて施設長が園会議で職員に打ち出し、職員が共感してくれての取り組み実施となりました。まずは見守る事から、これは日常の保育方針ではありましたが、本取り組みではそこを徹底する事がポイントになりました。職員各自が今までの保育を改めて振り返り、子ども主体、子どもの自立を強く意識して向き合いました。保育に対するグループ姿勢としての「保育者自ら背中を見せて」のうで、子どもの行動をまずは見守る事を徹底しました。その成果として、子どもたちの主体性の育みを感じ取る事ができました。食事のテーブルを並べる様子を見ると、自分で椅子を持って行ったり、ウォータージャグから自分でお茶をついだりする様子まで見られるようになりました。また、本取り組みは、保育者にとっての学びにもつながっています。保育者自ら主体的に考える機会が増え、取り組み継続とともに本取り組み以外でも様々な点での積極的な提案が増え、今後も保育の質の向上につながっていく事が期待できます。</p>	

<p>評価項目2</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>園児が様々な人たちと楽しみながら関わられるように、地域交流をさらに進めていく事に取り組みました。具体的には、2つの事を集中的に行いました。まず児童館という場をターゲットに、そこで地域の子どもやその保護者とのコミュニケーションを深めていきました。もう一つは、おやつ材料購入の際、子どもたちと一緒に青果店やスーパーなどへ行き、店の人と積極的に会話を交わす事でした。これらを繰り返すうちに、行き先の人に覚えてもらえ、「今日も来てくれたの？」など、声をかけてくれるようになりました。子どもたちも積極的に挨拶し、会話を楽しむ様子が見られるようになりました。そのような中で、園と地域との関係性が深まった感触も得られるようになりました。たとえば、どろんこ会グループ系列各園の夏の恒例行事である「どろんこ祭り」では、開催告知に児童館が協力してくれて、地域の参加者が増えた事が挙げられます。以上のような取り組み活動とその成果や課題については毎月の園会議や毎週の週会議で振り返り、今後の取り組み方の検討を行いました。引き続き、地域との関係性を深め、園の存在をアピールしつつ、地域と一体となった保育を深めていく方針です。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>地域交流は、どろんこ会グループが重視している事で、これを深めていく事も園にとって大きなテーマとして捉えています。本取り組みにおいてはそれに加え、選ばれる園として地域に園をアピールするというねらいにも焦点を当てました。園としては、地域と共に保育を行っていきたいという強い願いがあります。そのために本取り組みは、子どもの地域交流と同時に、園が地域に根ざした保育園としての位置付けを強固なものにしていく事も主眼に置きました。取り組みの結果として、園の地域交流の進展が得られました。具体的には近隣の店の人との関係性、児童館という関係機関の協力、イベントへの動員数など、地域との関係性を深めた事が挙げられます。本取り組みは、新型コロナウイルス感染症の5類化を受けてからほぼ1年後であり、感染動向が微妙な部分を残しつつの実施でした。その中で、感染に注意しながらも園の取り組みに理解を示し、交流を受け入れてくれた関係機関があった事への感謝も、園は忘れていません。このような実例と取り組みによる学びを積み上げていく事で、地域になくてはならない子育て支援の拠点として、強固な位置付けの獲得につながっていくでしょう。</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
	◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
	◎あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている	○ 非該当
	サブカテゴリー1の講評		
<p>入園のしおりやホームページなどに、保育内容の特徴をわかりやすく掲載しています</p> <p>園についての情報は、入園のしおりに、どろんこ会グループ共通の理念「にんげん力。育てます。」に沿った具体的な保育活動の内容が詳しく掲載してあります。ホームページでは年間スケジュール、園だより、食育、保健だより等々が閲覧可能で、多くの写真を使ってわかりやすく園を紹介しています。また、子育て情報誌「ちきんえっぐだより」を近隣の児童館に配布し、地域に向けた活動やイベントなどのお知らせも行っています。園の見学希望はホームページでも問い合わせが可能で、日程の調整などについては柔軟な対応に努めています。</p> <p>区やこども家庭庁のホームページなどで、園の情報を提供しています</p> <p>区のホームページ「定期利用保育」で、利用対象者、申し込み方法、空き状況などが確認できますが、同ページ内の定期利用保育実施施設で、園の基本情報が閲覧できます。また政府の関連機関による「子ども子育て支援情報公表システム」に公開情報を提供しています。こちらにおいても、施設基本情報、設備情報、利用定員、サービス内容、職員の組織状況、提携医療機関、緊急・災害時の対応等々の詳細情報が表形式にわかりやすくまとめられ、住んでいる地域や最寄り駅から地図情報とあわせて閲覧できるようになっています。</p> <p>園見学では園での生活がイメージできるよう、時間をかけてわかりやすく説明しています</p> <p>当園は0～2歳児の子どもがワンフロアをベースに生活する小規模園です。見学時間は園児の園外活動時を提案していますが、見学者の都合や要望を優先し日程を調整しています。園長かベテラン保育士が対応し、園内設備や備品、キッチン、トイレ、午睡の様子、食事の時のテーブルセットなどについて説明しています。おもちゃや絵本、テラスでの野菜のプランター栽培の様子なども見学できます。保育料や発生費用についても詳しく説明し、質問にも対応しています。突然の来園でも入園のしおりを渡すだけでなく、可能な限り見学対応をしています。</p>			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>			
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>			
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園時に入園のしおりに沿って説明を行い、重要事項説明書で同意を得ています 園の見学後、保護者に利用の意思確認をして「入所前面談」で入園のしおりに沿って、契約書と重要事項説明書の読み合わせと説明を行います。その後「入所時面談」で、改めて重要事項説明書の内容、特に利用料金については混乱や誤解を招かないように説明し、不明点の有無を確認します。園児の写真や園で知り得た個人情報の取り扱いについても説明し、重要事項説明書と同様に同意書に署名、捺印をしてもらいます。入園決定後、準備書類一式が渡され、入園時までに専用アプリで子どもの基本情報を入力してもらい、保育上必要な情報収集を行います。 面談を通して子どもの発達状況、家庭での過ごし方や園への要望などを確認します 入園までに保護者がアプリに入力した子どもの基本情報を、全職員が共有します。入園時説明では登園から降園までの流れや、アプリを使った連絡帳のやりとり、欠席時の連絡など専用アプリの利用方法、基本ルールについてマニュアルを配付し説明します。そして入所前面談票を基に保育士と保護者が個別面談を行い、特に子どもの月齢や発達状況、家での生活、個性や配慮すべき点を詳細にヒアリングし、保護者の意向も確認します。アレルギー対応については、除去食申請書と医師が記載した生活管理指導表を基に栄養士を含めて面談を行います。 初めての園生活での不安や負担を軽減するため、希望者には慣れ保育を行います 子どもと保護者の負担が軽減できるように、希望者には慣れ保育を行っています。入園する子どもの約半数が慣れ保育を希望します。生まれて初めて親元を離れ、生活する事ができるのか、友達ができるのかなど、不安の声は入園前に多く寄せられます。慣れ保育については保護者の要望を聴取し相談のうえ、方針を決めていきます。子どもの様子を見ながら無理なく段階的に、在園時間を伸ばしていきます。保護者も慣れ保育を進めていく中で、園生活に必要な準備品や登降園時の日々のルーティンなど、説明を受けながら経験し慣れていく事ができます。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13／13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で送り・引き継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもの記録はどろんこ会グループ統一の書式で行い、全職員が共有する仕組みです 子どもの様子については、グループ統一の専用アプリの管理画面に個別記録、個別計画、個別省察を入力し、職員が必要な時に閲覧できる状態で管理されています。0～2歳児全ての子どもに対して毎月、月間個別計画を作成し省察を行って子どもの成長や発達を追って記録ができるようにしています。マニュアルに沿って担当者が計画を作成し、月末ごとに省察を記録する仕組みとなっています。職員は定期的に個人記録と省察を行う中で、エピソード記録などからも子どもの変化を捉え、子どもについての理解を深め、より良い対応を検討しています。 保護者には保育活動計画を開示し、子どもの成長を保護者懇談会などで説明しています 保育所保育指針に基づいて全体的な計画が立案され、園の保育目標を設定し、年間指導計画が策定されます。保護者には年度初めに専用アプリで全体的な計画と年間指導計画を配信し、子育ての方向性がわかるようにしています。年2回の保護者懇談会では、子どもの成長の様子や変化について理解が得られるように説明をしています。また、日々の出来事においても保護者へていねいに伝えていく事と、月間個別計画の振り返りや4半期ごとの年間指導計画の省察の記録を踏まえる事で、子どもの成長がわかりやすい説明につなげています。 子どもや保護者の日々の状況変化の共有では、漏れのない伝達体制を整えています 子どもや保護者の状況の変化は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記載し、職員が勤務前に目を通し共有するルールになっています。ノートには記入者、伝達者を記名し職責も明記して伝達漏れが生じないようにしています。朝の受け入れ時の子どもの様子や、保護者から伝えられた事をその場でノートに記入し必要に応じて園日誌、朝礼、園会議などで共有をします。降園時、園での出来事で保護者に伝える内容もノートに記載し、遅番職員に確実に伝達するようにしています。職員間では貸与携帯でのチャットも使い報告、連絡を密にしています。		

サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリ5の講評			
<p>個人情報などの守秘情報の取り扱いは、グループ規定に基づき運営されています</p> <p>個人情報の取り扱いについては、どろんこ会グループ統一の個人情報保護方針に基づき、入園のしおり、重要事項説明書に記載しています。これらについては保護者に説明した後、同意を得ています。法人は園で入手した子どもの情報などの扱いについて、年2回の定期的な情報セキュリティチェックで点検を実施しています。子どもの写真や動画は保育活動情報として活用し、園生活の様子が保護者にとって手に取るようにわかりやすい内容で発信しています。ただし各家庭の考え方を優先し、同意なく使用する事がないように注意を払っています。</p> <p>「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を使用し、定期的に職員評価を行います</p> <p>虐待については、虐待対応マニュアルが整備され、保育品質マニュアルとともにその防止と適切な対応の仕組みを整えています。虐待への対応方針については重要事項説明書にも明記し、保護者に周知しています。虐待など不適切な保育が行われる事のないように、年2回、全職員は園会議で「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を用いて自己採点を行ったうえで、研修を受けます。職員自らが日頃の保育を振り返り、子ども一人ひとりを尊重する保育を考察し、子どもを大切に思う気持ちを持った保育活動について理解を深めています。</p> <p>人権を重視し、子どもと保護者一人ひとりの個性や価値観を尊重しています</p> <p>「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」で職員自らの振り返りを行うとともに、子どもの心を大切にしながら一人ひとりの個性を尊重しています。子どもが興味関心を示した事については安全に注意しながらできるだけ見守ります。子どもへの声かけでは、呼び捨てにしたりあだ名を付けたりせず、必ず敬称を付けて名前を呼んでいます。おもらしやおねしょなどでの着替えは羞恥心に配慮して、ほかの子どもから見えない場所で行っています。また、保護者との間では子どもや保護者の価値観や生活習慣を尊重してコミュニケーションを図っています。</p>			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	<div>サブカテゴリー毎の標準項目実施状況</div> <div>5 / 5</div>
<div>評価項目1</div> <div>手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている</div> <div>評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
<div>評価項目2</div> <div>サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている</div> <div>評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<div>国際標準規格認証を取得し、規格に準拠して保育の品質を高めています</div> <div>2016年、どろんこ会グループはISO9001認証を取得し、国際標準規格を満たした品質の保育提供が認証されました。それに基づき毎年の事業計画策定の時期には保護者からの意見集約も行いながら改善を検討し、より質の高い保育サービスを目指しています。保育運営の品質チェックは内部監査室にて年2回、子育てサービス、帳簿マネジメントなど130項目に及ぶ内部監査を定期的実施しています。園独自のマニュアルも作成し、子どもの命に関わるけがや体調不良などへの対応について標準化したルール作りと遵守に努めています。</div> <div>高品質な保育サービス実践のため、保育品質マニュアルが全職員に配付されています</div> <div>現場で得た知見や運営本部との話し合いを基に「保育品質マニュアル」の冊子が整備されています。この約250ページに及ぶマニュアルは、日々の保育や給食、園児の健康管理、危機管理、衛生管理、感染症対応、虐待についてなど多岐にわたりまとめられ、国際標準規格の認証取得するうえでの土台となりました。マニュアルは現場の声や保護者の声をボトムアップし、定められたルールでの協議、合意のもと毎年改版されます。また、いつでも繰り返し活用する事ができるように職員全員に貸与され、保育実践の座右の書となっています。</div> <div>利用者アンケートや意見聴取を集約し、是正計画を作成し改善を図っています</div> <div>年1回、園では保護者にアンケートを実施しています。保護者目線での園の課題や検討事項を抽出する事で、よりニーズに応えられる園作りの一助としています。アンケート結果はご意見・ご提案シートに集約し、計画の改善にもつなげています。省察を加えて対応方法を運営本部に報告し、玄関に評価結果にリンクしたQRコードを掲示し開示されています。園は一貫した保育サービス提供のための業務標準化、保護者の声の受け止めと業務改善の積み重ねが、子どもの最善の利益を保障した保育環境を提供するうえで大切な事と認識しています。</div>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	37／37
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		
	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
	○あり ○なし	6.【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	● 非該当
	評価項目1の講評		
	<p>子どもの発達過程や生活環境を詳細に把握し、個別性を重視して支援に当たります</p> <p>園生活を送るうえで家庭での様子を把握するため「入所前児童面談票」を提出してもらいます。月齢や発達状況に対応した個別性を重視し、面談票には栄養や睡眠の状況、言葉(発声や喃語など)の発達はどうか、不快な事を泣いて知らせるか、あやすと声を出して笑うか、言葉がけがわかるか、気持ちの伝え方はどのように表現するか、排泄の自立状況など多くのチェック項目があります。その記録と面談で、より詳細に状況を抽出して支援に当たります。月間個別計画の立案と指導案を作成し、省察を重ねて次月計画と援助、目標を設定していきます。</p> <p>子どもが自分の意思で、主体的に遊びを展開できるような環境を設定しています</p> <p>日々の遊びの中で子どもの発達に見合った遊具やおもちゃが準備され、子どもが自分で好きな物を選び手に取りやすい場所にあるか、自分の意思で遊びを展開できるような環境になっているかを定期的に見直し、改善を重ねています。例えばブロック遊びをしようとしている子どもにとって、ブロックが手の届きやすいところにあるかを見直しておきます。お店屋さんごっこを始めたらしり気なく人形を置いておくなど、子どもの発達状況を考えながら遊びの展開を予測し、子どもが主体的に遊びを楽しめるような環境設定に配慮しています。</p> <p>子ども同士のトラブルでは、互いの気持ちが理解できるように支援しています</p> <p>かみつきのや子ども同士のトラブルについては、懇談会で園のかみつきの考え方の資料を配付し説明します。発達過程の生理現象の一つで感情のコントロールに関わる大切なテーマと捉えています。異年齢の子どもが同じ部屋で過ごし関係性を深めていく反面、力の加減など関わり方がわからない時もあります。保育者は子どもの気持ちに寄り添い代弁しつつ、一方的な白黒の判断をせずに見守り、必要に応じて間に入り言葉がけをします。徐々に「あとで貸してね」「一緒に使おうか」など子ども自らが解決する会話も増えていく様子が見られています。</p>		

2

評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<div> <div>○</div>非該当 </div>

評価項目2の講評

登園時に、子どもの状態など必要な情報を保護者から聞き取り確認をします

登園時には連絡帳アプリの内容確認と視診、検温を行い家庭での子どもの様子や体調を保護者から聞き取ります。保護者からの伝達や子どもの様子で気になる事は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記載して、職員全員が共有し内容によっては朝礼でも伝言をします。週末の疲れが残っているなど体調が思わしくない子どもには、保護者と相談して室内活動への変更や午睡時間の調整など柔軟に対応しています。乳幼児期において生活リズムが整い保育の連続性が保てる事の大切さを保護者懇談会で説明し、細やかな情報共有を働きかけています。

月齢の違いや体調、家庭での過ごし方の情報を基に、園生活で柔軟に対応しています

定員17名の小規模園である事を生かし、月齢差のある子ども一人ひとりに向き合い、きめ細やかな保育が行えるよう努めています。保護者から「少人数で先生が目が行き届いて安心して預けられる」「家と園での様子をしっかり聞き取ってくれてアドバイスをもらえる」という声が寄せられています。授乳期の子どもはミルクの量や間隔、睡眠時間の長さや時間帯など家庭での過ごし方を確認して、生活リズムが乱れないよう配慮します。子どもの体調や生活環境に応じて、保護者の意向に沿うように午睡時間についても柔軟に対応しています。

降園時には、子どもの様子を保護者に詳しく伝えるようにしています

どろんこ会グループ共通の取り組みである「3分間お迎え対応」を心がけ、その子どもの一日の様子を、エピソードを添えながらいねいに伝えています。専用アプリでも日々の様子や連絡事項は配信していますが、子どもの様子は会話で直接伝える事も大切にしています。また月ごとに園での活動内容をポートフォリオにして、保護者に自分の子どもの姿が見やすいように、玄関の低い位置に掲示しています。園での様子をていねいに伝える機会を工夫する事で、保護者が気軽に家庭での過ごし方などを相談がしやすい雰囲気作りに努めています。

3

評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	<div> <div>○</div>非該当 </div>
<div> <div>●</div>あり <div>○</div>なし </div>	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<div> <div>○</div>非該当 </div>

評価項目3の講評

0～2歳児がワンフロアで生活し、一緒に活動する異年齢保育を行っています

どろんこ会グループは「全ての人との関わりから判断・行動を身につける」ため、異年齢保育を推進しています。年齢が違う子どもたちが「共に暮らし・生活・遊び・労働を教えあう」事を基本方針としています。0～2歳児対象の園としては、ワンフロアでの生活の中で愛着形成と個々の発達支援を大切にしています。また年齢ごとではなく、発達段階に合わせて歩行の確立などの保育を行っています。毎日のベビーマッサージや優しい言葉がけなどゆったりした雰囲気作りの中で、他者との関わりが自然と身に付くようにスキンシップも大切にしています。

発声や喃語は言葉を話す発達過程と捉え、言語の感覚を磨けるように援助しています

自分の気持ちを表現する事が難しい段階の子どものコミュニケーションとして、発声や喃語は言葉を話すまでの成長過程と捉えています。その時、保育者は子どもの視線や目を見ながら、ゆっくりと笑顔で語りかけて寄り添います。絵本の読み聞かせや、季節の歌と一緒に歌い言葉のリズムや流れを楽しみます。また、リズムダンスに合わせて体を動かし言葉と感情が結び付くように接していきます。発声や喃語に対して応答的な関わりを繰り返し、職員との情緒的な絆を形成して言葉や心の発達を促すように働きかけています。

テラスでの遊び、バス移動保育、畑仕事や買物体験など多くの体験を提供しています

子どもが多くの体験の機会を持てるように、多彩な戸外活動を取り入れています。園の広いテラスで寝転び、はいはいしながらの日光浴、夏の水遊び、模造紙を使ったペインティングなどを行います。またプランター栽培の土いじりから始まり、近隣小学校に畑を借りてバス移動で週1、2回の畑仕事を行います。近くの商店街では定期的に様々な店を訪問し、おやつや材料を職員と一緒に購入したり、地域の人たちとの出会いの機会も多く持ったりします。保護者からは「小さいうちからバスに乗る体験は、他にはない施設の特色」という声も寄せられています。

19 / 28

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している <div style="text-align: right;"> 評点(〇〇〇) </div>		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当
	評価項目4の講評		
<p>年間行事の内容は、園児の発達状態や年齢構成を考慮して毎年検討しています</p> <p>室内での運動会や生活発表会など、園の行事は子どもの年齢構成や人数、発達段階、子どもが興味を持っている事を尊重して職員間で話し合い、次年度の諸計画を決める3月の策定会議で決定しています。毎年、年間行事をリセットし、経験の浅い職員からベテラン職員までの全員で「子どもは何をやってみたいのか」「子どもにとって何が必要か」を考えて、経験させたい体験を活動に取り入れています。保護者参加の行事については、特に開催日を参加しやすい週末に設定しています。これについては、保護者からも評価の声が寄せられています。</p> <p>行事の内容は子どもが興味を持って自主的、主体的に取り組めるようにしています</p> <p>運動会や生活発表会の内容は、毎年新たな気持ちで検討しています。日々の生活で子どもが興味のあるものや、挑戦したい気持ちを持っているもの、日常で楽しんでいるものを中心に決めています。また行事のための特別な内容よりも、日常の活動の成果を保護者に見てもらい内容を心がけています。子どもの日々の生活をポートフォリオにして玄関入口に掲示し、子どもが保護者と一緒に写真を見て楽しかった事を伝えています。そのような日々の様子を背景に、子どもが意欲を持って取り組める内容を園の行事に取り入れていくように努めています。</p> <p>日々の戸外活動の中で子どもたちが協力し合い、達成感が得られるように努めています</p> <p>子ども同士の関係性を大事にしながら、日々の保育に多くの戸外活動を取り入れています。例えば畑仕事は週1、2回の頻度で行います。土に触れ、種まきや苗を植え、水やりや草むしりを繰り返す事などで生育労働の楽しさと大切さを知り、そして収穫の喜びをみんなで分かち合います。五感を使って季節の移り変わりや様々な不思議を感じたり発見したり、日々の保育の中で多くの事を体験しています。みんなで一緒に協力し、やり遂げた達成感を味わう活動は、どろんこ会グループ理念の「にんげん力」に強くつながる要素の1つと言えます。</p>			
5	評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている <div style="text-align: right;"> 評点(〇〇〇) </div>		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当
	評価項目5の講評		
<p>在園時間が長い子どもは体調に配慮しながら、ゆっくりと過ごせる環境を整えています</p> <p>園はワンフロアである事を生かして、異年齢で交わり自由に遊べる環境作りを整えています。長時間保育の子どもには、遅めの時間にも散歩や公園遊びなども取り入れています。夕方の延長時間では、机上で遊んだり絵本の読み聞かせや職員とのスキンシップで安心して過ごせるように配慮しています。ただし週明けや暑さで疲れていたり、眠そうな様子が見られたりするような時は、ほかの子どもと活動空間を分けて十分な休息を確保します。低年齢の子どもであるため、常に体調管理と観察を密に行いながら負担がかからないように過ごしています。</p> <p>お迎え時間まで、子ども一人ひとりが好きな遊びを楽しめる環境を整えています</p> <p>在園時間が長くお迎えが遅い子どもは好きな遊びを選び、一人遊びを十分に楽しめる機会にもなります。「身近な人との安定した関わりの中で、一人遊びを十分に楽しみながら自我が芽生える」事も、園の保育の基本方針の一つです。職員は子どもが一人遊びに集中している時は見守り、発達に応じて遊びが展開できるような声かけをしています。園は戸外活動を積極的に行っている一方、園内での机上遊びがマンネリ化してしまわないように、一人ひとりの子どもの発達状況に合った遊びを提供できるよう職員のスキルアップを図っています。</p>			

6

評価項目6

子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動、保護者や地域の多様な関係者との連携等)を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

離乳期の食事は月齢や発達状況を確認しながら、段階的に進めています

食事は提携先の業者による弁当を提供しています。月齢や発達の状況を確認して食材の大きさや形状も含め保護者と相談しながら、初期食から完了食へ段階的に進めます。毎月の献立表には離乳期の食事の進め方のポイントが記載され、食育だよりも発行されています。食事はテーブルを囲い子ども同士の顔が見える温かく楽しい雰囲気の中で行い、2歳児になると自分で食べられる分量を皿に盛り付け、必要に応じて電子レンジで加温しています。保護者から「自宅ではあまり食べない食事も園では完食する事が多い」という声も寄せられています。

食物アレルギーのある子どもの食事は、マニュアルに基づいて慎重に提供されます

卵と乳製品アレルギー対応は、どろんこ会グループ共通のルールに沿って除去食対応をします。医師が記載した生活管理指導表と除去食申請書を提出してもらい、専門職員を含め保護者と面談し、職員間で対応できるよう情報共有をします。食事の提供はマニュアルに基づいて毎月、保護者に献立内容をチェックしてもらい、確認後の献立表にサインと捺印をして園と保護者で保管します。配膳時は声出しでのダブルチェック体制で対象園児の傍らに職員が必ず配置され、誤食防止を行っています。急なメニューの変更などは、専用アプリで連絡されます。

テラスでのプランター栽培や、近隣小学校で畑を借りて畑仕事をしています

職員全員による年間計画のもと、種まき、苗植え、水やり、草取りをして収穫まで行う事で、食育活動を実践しています。低年齢の子どもも、テラスのプランター栽培で野菜作りを行います。まず、土に触れる事から始まり徐々に土いじりを楽しむようになります。訪問時は辛ほり間近のさつま芋が植えられていました。近隣小学校の畑を借りて週2回程度の畑活動も行っています。収穫された野菜を味噌汁に入れて食べるなど、収穫したものを調理して食べる一連の流れも含めて、植物生育の楽しさを味わい、食材への興味を深める事などに取り組んでいます。

7

評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○ 非該当

評価項目7の講評

強い体を育てるために、遊び・労働・食事・休息のサイクルを大切に活動しています

「ケガをしない強い体を育てる」事を日々の活動の中に取り入れています。裸足保育は足指で地面を捉える力を育て「歩く・走る・跳ぶ・飛び降りる・よじ登る・横や後ろに動く」事で運動感覚を養います。毎日の雑巾がけや雑巾絞りは転んでも自分の体を支える事ができる徒手力を育てます。低年齢の子どももまずは雑巾に触れ、周りの子どもを見て雑巾がけ動作を真似ていきます。活動前に1分間の座禅をして「静かな時間」を持ちます。毎日一定以上の光を取り入れ体内時計が整えられるように、遊び・労働・食事・休息のサイクルを大切にしています。

園でのけがや体調不良が発生した場合は、マニュアルに沿った対応を徹底しています

園での事故やけがが発生した時はどろんこ会グループの「事故発生時対応フローチャート」に沿って、本部の緊急連絡先にその状況を画像で送り、報告・相談のうえ、病院受診や経過観察などの対応を決定する事になっています。医療機関によって処置が必要と判断された時は、あらかじめ登録されている保護者緊急連絡先に連絡を入れ、保護者に状況を報告します。低年齢であるほど発熱については細心の注意を払いますが、体温37、5度で保護者に状態報告の電話を入れ、38度以上になると再度電話し、可能であれば迎えの協力を要請しています。

定期健診の実施と健康情報の定期的な配信、午睡時の細心な観察を行っています

毎月1回の身体測定、年2回の嘱託医による健康診断、年1回の歯科検診を実施し、結果は専用アプリで配信し口頭でも説明しています。保健だよりは月1回配信され、感染症の状況や子どもの事故についての情報、園での防止対策なども保護者にわかりやすく説明しています。乳幼児突然死症候群の予防として、午睡中は呼吸状態や体位を仰向けにしているかについて、5分おきにアプリに観察記録を付けます。かけ布団は首から下にかけて、うつ熱予防のため手足の末端が布団から出ているか、背中に熱がこもっていないかなど、細心の注意を払っています。

8

評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

家庭の状況に応じて、保護者の気持ちに寄り添い子育て支援に取り組んでいます

保護者とは日常から送迎時の言葉かけ、子どもの様子の報告、連絡帳アプリなどでの細やかなコミュニケーションに努めています。その際、入園時面談や保護者懇談会を通じてそれぞれの家庭の事情も把握し、状況に応じた対応を心がけています。例えば定期利用で日数、時間が決まっても追加料金についての説明のうえ日数を増やしたり、時間を延長したり、保護者の就労状況に応じて柔軟に対応しています。子どもが健やかに成長していく土台は保護者との信頼関係の構築が重要と考え、話しやすい雰囲気気軽に相談できる環境作りに努めています。

子育ての理解を深める機会として、行事参加や懇親会での交流の場を設けています

園での子どもの様子を知ってもらうため、保育参加があります。就労都合などで参加できる家庭が少ないのが現状ですが、保育園の送迎時でも子どもの遊びや体験を知る事ができるように工夫しています。例えば玄関横の鉢に金魚やメダカを飼って世話をする様子や、虫かごに幼虫を飼ってカブトムシになっていく姿を子どもと一緒に楽しむ事ができます。室内での運動会や生活発表会、どろんこ祭りには保護者も参加し、年2回の保護者懇談会は保護者同士の交流の場としても位置付け、情報交換の時間も設けて親睦を深められるようにしています。

登園時の保護者負担軽減のため、園児用の手荷物を必要最低限にしています

園では出勤前の保護者の負担軽減のため、園児周りの世話が最低限になるように配慮しています。「朝は靴を脱がせず子どもの受け入れを行い、速やかに元気にお見送りをする」「保護者の手荷物を最低限にする」をモットーに、おむつはパックごと預かりおむつ一枚への記名の手間を省き個別ケースで管理しています。週末の布団シーツの取り外しや、週初めの取り付け作業も、可能な限り園児自身が行うように、職員が援助しながら働きかけています。安心して仕事と子育ての両立ができるように、保護者負担の軽減に努めています。

9

評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育施設の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目9の講評

多彩な地域交流の機会を持ち「人対人のコミュニケーション」を育んでいます

児童館や消防署、商店街などで、地域の様々な人と交流をしています。商店街ツアーは月2回程度行われ「地域交流・様々な仕事を目にする・地域の大人と目を見て話す」事を目的とし、「すれ違った全ての人」と挨拶を交わす事ができるようにしています。精肉店、青果店、スーパーマーケット、和菓子店、クリーニング店、電気店、ガソリンスタンド、クリニック、交番等々を訪問し、一つでも多くの仕事を目にするようにしています。また、地域のカレーショップで「インドはどこにあるか」「カレーについて」の話を聞く機会も設けています。

地域の人との交流を進める中で、保育園と地域との協働による子育てを目指しています

子育て支援計画の中で、地域の子育て家庭に呼びかけて子育て相談やイベント開催を行う「ちきんえっぐ」の活動と、情報誌「ちきんえっぐだより」でその情報発信をしています。その中で青空保育は近隣の公園で月1回行われ、地域の親子と保育士、子どもたちが同じ時間、同じ空間を共にします。また児童館で地域の人たちとの交流を定期的に行う取り組みをしています。児童館の協力もあり、今期のどろんこ祭りには地域の人たちや卒園児も参加をしてくれて賑わいました。地域交流を深める事で保育園と地域とで一体感のある子育てを目指しています。

調査対象	施設を利用している5世帯を対象に調査を実施しました。在園児は5名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。		
利用者総数	5		
利用者家族総数(世帯)	5		
共通評価項目による調査対象者数	5		
共通評価項目による調査の有効回答者数	5		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	100.0		

利用者調査全体のコメント

保育施設に対する総合的な感想は、「大変満足」が4人(80%)、「満足」が0人(0%)で「満足」以上の回答は合計4人(80%)でした。 自由意見には、「少人数で先生の人数も多く、目が行き届いており、安心して預けられます」「子どもがとても楽しく通園しています。それが1番だと思います」「先生方もいつも優しく穏やかに接して、子どもの成長を温かく見守ってくれています。日々の報告や、家と園での様子もしっかり聞き取り、的確なアドバイスもいただき、ありがたい限りです」「少人数で手厚い保育です」「園外保育は特に良いと思う活動の一つで、小さいうちからバスに乗る体験や、生き物や植物と触れ合う経験がたくさんできます」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。 項目別に見ますと、「保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか」「保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」、「【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」他8項目で100.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。	
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「日々成長を感じるので、合っていると感じます」「室内遊びや製作なども工夫がいっぱいです。金魚やメダカのお世話をしたり、幼虫からカブトムシになるまでの成長を観察したり、季節に合った活動をたくさんさせてもらっています。日々の園生活が、子どもの心身の成長に繋がっていると思います」などの声がありました。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「施設はあまり広いものではないですが、子どもたちが楽しく過ごせるように、日々工夫された空間になっていると思います」「公園で泥遊びを行ったり、体を動かせる時間があるのがとてもいいと思います」などの声がありました。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「自宅ではあまり食べない食事も、園では完食することも多いです」「アレルギーに対応した食事、おやつを提供してくれます。安心して預けることができますと思います」「食べられるものが多くなり、栄養面でも助かっています」などの声がありました。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「畑活動、採れた野菜をおやつにお味噌汁にしたり、おやつを材料を近くのお店に買いに行き作ったり、自分たちで作る良い経験だと思います」「日々のお散歩、またバスでの移動保育で、十分に関わっていると思います」「水遊び、畑での栽培など外遊びが多いです」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には「追加料金はかかっても、日数を増やしたり、時間が延長できたりして、便利です」という声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	3	1	1	0
「はい」が60.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が20.0%でした。 自由意見には、「感染症に関しましては、共有が少ないので、必要だと思います。こういった感染症が流行しておりますなど、口頭伝達や、掲示物などがあってもいいかなと思います」などの声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「土曜日に夏祭りがありました。仕事が休みなので保護者も参加でき、子どもはとても嬉しそうでした」などの声がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	4	1	0	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	4	1	0	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%でした。 自由意見には、「おもちゃの消毒をやっているか、気になります」という意見がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	4	0	0	1
「はい」が80.0%、「無回答・非該当」が20.0%でした。 自由意見には、「丁寧に報告をしていただいています」などの声がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。”				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	3	1	0	1
「はい」が60.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「無回答・非該当」が20.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「園内に月毎の活動を、写真などで掲示してくださるので、ありがたいです」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	5	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口（行政等）にも相談できることを伝えられているか	2	2	1	0
「はい」が40.0%、「どちらともいえない」が40.0%、「いいえ」が20.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				

調査対象

利用者調査実施期間の調査対象は0名でした。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行う予定でしたが、利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、調査は実施していません。

利用者総数	0
利用者家族総数(世帯)	0
共通評価項目による調査対象者数	0
共通評価項目による調査の有効回答者数	0
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	0.0

利用者調査全体のコメント

利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				
17. 外部の苦情窓口（行政等）にも相談できることを伝えられているか	0	0	0	0
利用者調査実施期間の調査対象が0名であったため、コメントはありません。				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証